

令和3年 迎春 新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、新元号の祝賀ムードから一転して、「新型コロナウイルス」と「豪雨災害」という二つの危機に向き合う1年になりました。

その中で改めて感じたことは、「市民一人一人の生活に寄り添う」ことの大切さです。本市では、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて早急に関係団体や市内全事業所へのヒアリングなどによるニーズ調査を行い、より必要性の高い支援策を実施しました。

災害対応では、災害ごみの迅速な受入れや保健師などの戸別訪問、さらには、台風10号接近の際のペット同伴避難所の開設など、被災者に寄り添う支援に努めました。

また、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ「新しい生活様式」への協力や、災害の際の消防団や社会福祉協議会などの関係機関、行政協力員、ボランティア、地域住民の皆さんのご協力に対しまして、改めて深く感謝申し上げます。

前例のない危機に対応する中で、新時代に向けたチャレンジにも取り組みました。「スマートシティ」の一環として人工知能を活用した「おもいやいタクシー」の運行開始や市立図書館を電子書籍などが充実した「未来型図書館」としてあらおシティモールに移転する協定の締結などです。

本年も、新型コロナウイルス感染拡大防止と地域経済の回復、そして、豪雨災害か

新年明けまして、おめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃より市議会の運営と活動に対しまして、ご協力とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は、「新型コロナウイルス」に始まり、「新型コロナウイルス」で終わった1年でした。

世界中で今も蔓延している「新型コロナウイルス感染症」は、本市にも大きな影響を及ぼし、いまだ収束の見通しが立っていない、いわゆる「コロナ禍」の中で、感染拡大防止と地域経済活動を両立させる、という難題に対峙しなければなりません。

市議会としましては、「ウィズコロナ」を最重要課題に位置付け、市行政と連携した取り組みを推進してまいります。

併せて、大きな被害をもたらした7月の豪雨の経験を教訓に、自助・共助・公助が連携した災害に強いまちづくりを目指してまいります。

このような中、本市では、「第6次荒尾市総合計画」がスタートし、その重点戦略であります「あらお未来プロジェクト」の施策が推進されています。

具体的には、懸案事業でありました「新市民病院（荒尾市立有明医療センター（仮称）」は令和5年秋、長洲町と共同運営することが決まった「新学校給食センター」は令和4年9月のオープンに向けて、鋭意準備が進められています。

また、ビッグプロジェクトであります、「南

らの暮らし再建を最優先にしつつ、これまでの取り組みが大きな実を結ぶよう様々な事業を進めていきます。

建設準備中の新市民病院は令和5年秋の開院を目指してことしの春には造成工事に着手し、新たな中心拠点を目指す南新地区では区画整理やウエルネス拠点としてのまちづくりを進めます。

また、新たに導入する防災情報伝達システムは、今年4月に運用開始し、地区防災計画などの策定も含めて災害に強いまちづくりを進めます。

本市におきましてはウィズコロナ・アフターコロナを見据え、「全世代型デジタル社会」の実現により、市民の皆さんが安心して便利な暮らしができるまちづくりに本年も全力で取り組みます。

結びに、市民の皆さんのご多幸を祈念し、年頭の挨拶といたします。

荒尾市長 浅田敏彦

新地土地区画整理事業（スマートシティプロジェクト、ウエルネス拠点づくりなど）をはじめ、官民連携事業としての、「市立図書館のあらおシティモールへの移転」や「相乗り（おもいやい）タクシー」など目白押し

の地域活性化策が展開されています。

荒尾市議会としましては、議員18人全員が前述の課題を市民の方々と共有し、課題解決に向かっての施策を検討し、議会という場を通じて二元代表制の下、しっかりと役割を果たしてまいりたいと考えております。

本年も市民福祉の向上を図り、市民の皆さまが健康で、安心して暮らし続けることが出来るまちづくりの実現に向けて市民の負託に全力で応えていく所存でございます。

どうか、本市議会の活動に対しましてご理解を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

荒尾市議会議員 安田康則



荒尾市議会議員 安田康則



荒尾市長 浅田敏彦